

はあとふる

Heartful 2012.10

地域の皆さんに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



オリンピックが終わって挨拶に来院されたシンクロナイズドスイミングの選手(井村シンクロ所属)と支援スタッフ

■特 集

**2012年、夏
ロンドンオリンピックに
出場したマーメイドを
支援しました。**

インタビュー

スポーツ整形の理学療法士の仕事

「ロボットスーツHAL」を
八尾はあとふる病院で導入

平成24年“秋”、
小さな「サービス付き高齢者向け住宅」が
誕生!

トピックス

全国訪問リハビリテーション研究会開催

“Cafe”Infection Control



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

日本医療機能評価機構

はあとふる グループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

島田病院とEudynamicsはびきのヴィゴラスは、 2012年夏のロンドンオリンピックに出場した マーメイドを支援しました。

今回は、ロンドンオリンピック出場までの支援を行ったシンクロナイズドスイミングの乾 友紀子選手との関わりについてご紹介します。オリンピックで最高の演技を行うという目標を達成できるよう、その方法論の提示と実践を支援するため、島田病院の医師、理学療法士、ヴィゴラスのトレーナーなどが関わり、ケガからの復帰を支援しました。メダルには届きませんでしたが、日本代表としてオリンピックを戦い抜くことができたと思います。

担当 理学療法士 ハ坂真妃

乾選手は今年の2月の合宿中に左足首を捻挫しました。その後、治療を受けながら特別プログラムで練習に参加していましたが、経過があまり思わしくなく、所属する井村シンクロクラブに相談がありました。チームの選手の管理に携わっている関係で、4月初旬に島田病院を受診し、島田理事長が診療を担当しました。そこから私も関わらせていただくことになり、当院で、ロンドンオリンピックにむけての集中的なリハビリ、トレーニングの日々がはじまりました。

チームや彼女のその後の予定を確認し、治療計画を立てました。本人、周囲と協議しオリンピック予選から帰国後、本格的な機能回復のため、チームから離して、集中的なリハビリを行っていくという方針になりました。

当初は今からどんな日々がはじまるのか、乾選手も一緒にこられていたお母さまも不安なご様子でした。理事長から、「8月のオリンピックに向けて少しの時間も無駄にはできない。本来の動きに戻すために、今すぐにでも現在の課題に対して集中的にリハビリとトレーニングをしていこう。」とお話をされました。乾選手は、チームでオリンピックにむけて頑張っているときに個別でリハビリに専念することに対する不安も口にしていましたが、翌日には「今自分がリハビリに専念することがチームのためになるので頑張ります!」という言葉を聞くことができました。この判断能力と頭の切り替えの早さには驚きました。

◆重点課題

- 「患部である左足首を中心とした動きと力の回復」
- 「演技の中での軸の再獲得」
- 「左脚がきちんと使えていたときの感覚を取り戻す(頭でのイメージと身体の動きが繋がること)」

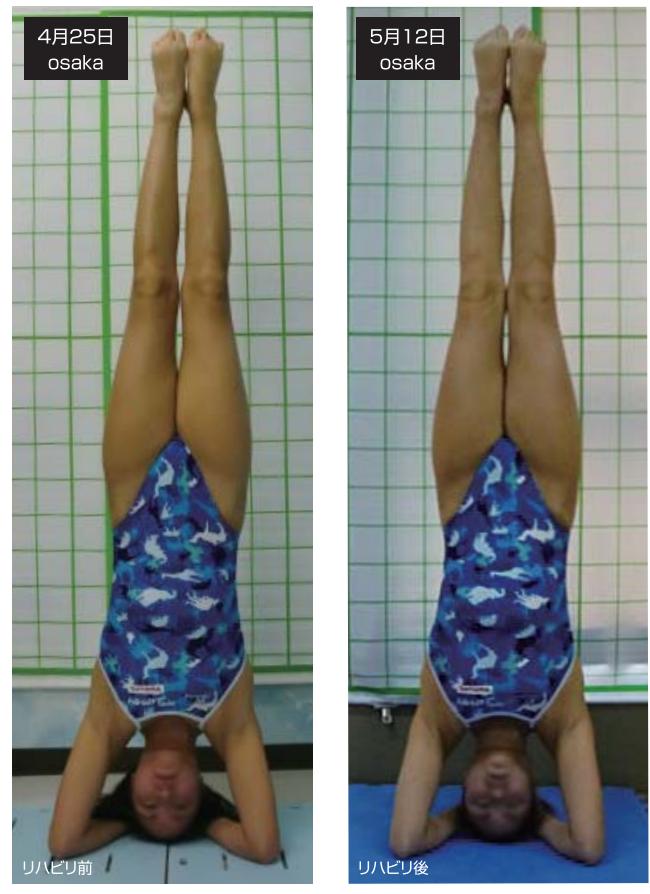
これらを重点課題として、トレーナーとも協力しながら、全身的なトレーニングを組み立てました。体重の管理や食事の指導は管理栄養士、ドーピングにならないようにと薬の管理は薬剤

私たちは乾選手の身体の状況を把握し、損なわれたQOLはなにか分析し、ご本人と共有することから始めました。

私たちは、その人によって目標が異なるだけで、トップアスリートへの支援と中高生のスポーツ選手、社会で生活することにより障害を受けた方、高齢者への支援に差はないと考えており、この経験を、島田病院の診療に活かしていきます。

師にも関わってもらい、島田病院の専門職種が多方面からサポートしました。

そして、ナショナルチームに再度合流する前、乾選手からの手紙には「島田病院のたくさんの方のサポートのおかげで、とても充実した日々を過ごすことができました。ありがとうございました。こんなにも自分の体と向き合ったことはありませんでしたし、たくさん学ばせていただきました。(一部抜粋)」と書かれていました。



ケガによりゆがんだ軸を修正



演技が終わり、得点を待つ日本チームの選手達

単にトレーニングをこなしてもらうだけではなく、しっかりと話し合い、目標を共有するという過程を繰り返し踏んだことが乾選手自身の満足度をあげることに繋がったのではないかと思います。私も理学療法士として、何かに向けて一生懸命になっている人と一緒に頑張ることはとても嬉しいことでやりがいがあることを再認識できた日々でした。

「濃い関わりができる選手が世界の舞台に立つ瞬間をぜひとも会場で見たい!」という衝動に駆られ、短期間ではありましたが、オリンピック会場にも足を運びました。

目指していた大会で最高のパフォーマンスを発揮するには、それまでの準備(トレーニングや練習)と精神面の強さ、そして



オリンピック競技前に乾選手と小林選手の体調確認をする島田理事長

家族も含めた周囲のサポートがとても重要であることを感じました。

乾 友紀子選手のトレーニングサポートについて

はびきのヴィゴラスでは、4月25日～5月12日までの18日間、身体全体の強化トレーニングを担当しました。

乾選手から情報収集(ナショナルチームで指摘されている点、現在行っているトレーニング内容など)と、身体の評価結果を参考に、理学療法士とも検討した上で、課題を洗い出し、課題点の改善と強化のためのトレーニングプログラムを作成しました。

課題点

- 1.左肩周りの安定性が不足しているため、左手のコントロールが上手くできない
- 2.動作の中で「動かす部位」、「固定する部位」が明確にならず、動作に「ブレ」が生じる
- 3.動きの中で「力の伝達」が上手くできず、力強さが発揮できない
- 4.筋肉のボリューム不足

Eudynamicsはびきのヴィゴラス

—— 疾病予防施設 ——

トレーナー 大西 敏之

毎日2時間、トレーナーがマンツーマンでトレーニング指導をしました。トレーニングの習熟度やシンクロ競技との関連性など、本人と相談をしながらプログラムの調整を行い、トレーニングの質・量のレベルアップを図りました。また、トレーニング開始6日目からはプールでシンクロの通常練習も行うようになりました。練習で出た課題は直ぐにトレーニングに反映させ、プログラムの修正と自主トレーニングプログラムも提供しました。

毎日、リハビリ・トレーニング・プール練習とハードな日々を過ごしていましたが、必死にトレーニングに取り組む姿に「アスリート魂」を垣間見ることができ、感銘を受けました。

オリンピックはデュエット・チームとともに5位と残念ながらメダルには届きませんでしたが、乾選手の努力の成果は演技に確実に表れていたと感じました。

はびきのヴィゴラスでは、本気で取り組むアスリートに対して、正面から本気で向き合い、サポートをしていきます。

●ある日のスケジュール

実施内容	8:00	9:00	9:00～11:00 食事	10:00～11:00 リハビリ	12:00	13:00	13:00～15:00 食事	14:00～15:00 ヴィゴラスにて トレーニング	15:00	15:20～16:50 リハビリ	16:00	17:00	17:30～21:00 プール練習 (理学療法士・トレーナー帯同)	21:00	21:00～21:30 食事
時 間	8:00	9:00	9:00～11:00 食事	10:00～11:00 リハビリ	12:00	13:00	13:00～15:00 食事	14:00～15:00 ヴィゴラスにて トレーニング	15:00	15:20～16:50 リハビリ	16:00	17:00	17:30～21:00 プール練習 (理学療法士・トレーナー帯同)	21:00	21:00～21:30 食事

その人にあった最善のリハビリを提供し、 トップアスリートから高齢者まで幅広くサポートしています。



島田病院 リハビリテーション課 理学療法士 八坂真妃

理学療法士を目指してから島田病院入職まで

中学校時代、私はバスケットボールをしていました。練習中に足首をケガしてしまい、ある病院を受診し、手術の後にリハビリをうけました。その病院には、スポーツプログラマーという職種がいて、私がバスケットボールへの復帰を希望していたこともあり、この方が担当になってリハビリをすることになりました。再びバスケットボールができるようになったときはとても嬉しくて、これがきっかけでスポーツ選手のサポートをする仕事をつけていいなあ…となるとなんとなく思うようになりましたね。高校生になってからは、将来の事を考えるようになり、スポーツをサポートする仕事を色々と調べていくうちに、医療、スポーツ、福祉というキーワードにあてはまる仕事に就きたいと思うようになって、理学療法士になろうって決めました。高校卒業後に、理学療法士の専門学校に進学し、資格を取得しました。専門学校を卒業するときに、「スポーツの分野に興味がある」って進路相談をしたときに、島田病院をすすめられたのがきっかけですね。

スポーツ選手のサポートに必要なこと

外来や入院では、アマチュアからプロまでスポーツをされている方の担当をする機会が多く、たくさんの経験を積ませてもらっています。その人(スポーツ)にあった最善のリハビリができるよう、知識、技術の習得に取り組むように心がけています。最近では、法人が主催するアメリカ研修に参加しました。この研修では、アメリカの治療現場に触れることができたので、すごく刺激になりました。また、ロンドンオリンピックの観戦にも行き、世界のトップアスリートを支援する理学療法士と話をする機会があったのですが、その専門性の高さ、知識の豊富さには驚かされました。トップアスリートをサポートするためには、単にリハビリの知識だけでなく、トレーナー、栄養についてまで、幅広い知識が必要であることを実感しました。

島田病院やヴィゴラスがサポートしているバドミントンやシンク

ロナイズドスイミング、トランポリンなどオリンピックに出場できるトップアスリート達との関わりでは、演技の精度や技術をあげるのはコーチの役割で、それが実現できる身体を作るのが、私たちの役割であると考えています。優れた選手には、優れたコーチに加えて優れたトレーニングスタッフの存在も必要不可欠です。トップアスリートを支える技術を持った理学療法士として、幅広く自分の能力をあげて、日々の診療でも活かしていきたいと考えています。

トップアスリートも手術後の患者さんも 必要な技術は同じ

スポーツ選手から高齢者までたくさんの症例に関わる中で、ケガの発症からスポーツへ復帰することと、社会へ復帰することは、同じであると思っています。トップアスリートとの関わりで、身についた知識や技術を、学校のクラブ活動や、社会復帰を目指す高齢者の方へのリハビリにも活かして、質の高いリハビリを島田病院に通院する患者さまに提供し続けていきたいと思います。



「ロボットスーツHAL」 八尾はあとふる病院で導入しています!!

ロボットでリハビリ?

ロボット技術の開発は目覚ましく、リハビリテーション分野でも臨床現場で導入されはじめています。歩行支援型のロボットスーツHALは筑波大学 山海教授が開発し、下肢に筋力低下や麻痺が生じた方に使用することで、その力を補助する役割を担います。まだまだ医療現場での有効性は未知数ですが、当院ではHALチームを作り、患者さまの状態をしっかりと把握している担当セラピストと一緒に使用を開始しています。今考えられる使用目的は、①歩くことができない方に装着して歩けるように補助する。②すでに歩けている方に装着し、よりよい歩き方を目指す。の2つです。

リハビリテーションに携わるものとして、最先端の分野であるロボットリハビリテーションにチャレンジする機会を持てたことは非常に幸運だと感じています。自分達が取り組んできたリハビリテーションと先進技術を融合させることは簡単なことではありません。しかし、先進技術に取り組むことで、現状を見つめ直す機会にもなっています。ロボットはセラピストの代理ではなく、リハビリテーションの一部あるいはリハビリテーションの道具として活用してこそ意味があります。今回当院が導入したロボットスーツHALは急速に導入施設が増加していることからもわかるように、さまざまな可能性が期待されています。その可能性を必要としている方々に還元できるようスタッフ一同でチャレンジしていきたいと思います。



患者さまの声

「最初は、着けるのに時間がかかるし、がんじがらめにされた感じで、歩きづらかったです。でも、リハビリの後にもう一度歩いたら、足の運びが軽くて、今までだったら右足に揃えるくらいしか左足が出なかったのに、同じくらい左足が出るようになったんです。「何これ?」とビックリしました。」

平成24年、秋、 小さな「サービス付き高齢者向け住宅」が誕生!

社会福祉法人はあとふるの「高齢者生活支援ハウス ゆうゆうハウス」がリニューアルします。

医療法人永広会 島田病院・介護老人保健施設 悠々亭のそばにあります。

「サービス付き高齢者向け住宅」とは、

60歳以上の高齢者や介護認定を受けている方が安心して生活できる

バリアフリーの賃貸住宅です。

サービス付き高齢者向け住宅「ゆうゆうハウス」は、どんなところ?

3階建ての建物で2階・3階に個室6室がある小さな施設です。各部屋には、ミニ台所・水洗トイレ・洗面設備・収納設備があり、共有スペースには食堂や浴室・洗濯室・バルコニーがあります。1階は、23名定員のデイサービスです。

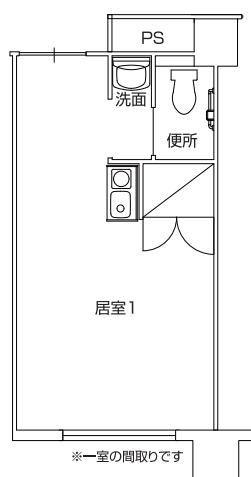
サービス内容は、社会福祉法人の職員が日中常駐し、安否確認や生活相談をお受けします。

具体的には…

- ①日中の食事提供時に体調や服薬などの確認
- ②介護サービス利用状態の把握、外出先の確認と帰所などの安否確認
- ③共有部清掃、朝・昼・夕巡回での安否確認
- ④体調相談:適切な医療機関の紹介及び訪問看護・家族への連絡
- ⑤生活、身体精神・介護サービス関連:ケアマネジャー、家族と連携・報告
- ⑥社会的相談:地域包括支援センター、市行政との連携
- ⑦夜間は緊急通報システムを使い訪問介護ステーションに委託して対応

ご希望の方には、お食事の提供もさせていただきます。また、介護保険サービスを利用することで、介護が必要な方でも、おひとりお一人にあったライフ・スタイルで生活することができます。

- 家賃／60,000円
 - 共益費／20,000円
 - 状況把握・生活相談サービス費／6,000円(税別)
 - 食事代51,000円(税別)
- ご希望の方のみ、毎日3食申し込みした場合の金額です。
※入居時には、別途敷金120,000円が必要となります。



ひとりで住むのが不安、今の住宅が住みにくい等のお悩みをお持ちのかたは、ぜひ一度ご相談ください。

〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山96-10
連絡先／ゆうゆうハウス 担当：阪村まで Tel 072-931-1616

全国訪問リハビリテーション研究会主催 「地域研修会(基礎コース)in大阪」が 本町のエビスAAホールにて開催されました。

大阪では初めてとなる地域研修会で、八尾はあとふる病院が事務局を担うことになりました。初めての事務局なので不安もありましたが、八尾はあとふる病院のスタッフが一丸となって、「大阪を盛り上げていこう!」という気持ちで準備をすすめてきました。訪問リハビリテーションの可能性を広げたい!!という思いから、「訪問リハの可能性~訪問リハができるこつってなんだろう~」というテーマで、平成24年2月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり開催しました。

研修会当日は、約120名の参加者が全国より集まり大盛況でした。全国訪問リハビリテーション研究会会長 伊藤隆夫氏のオリエンテーションから始まり、大阪で活躍している医療機関や訪問リハビリテーションの方々を講師に迎えた講義と参加者全員が参加してワークショップを行いました。



ワークショップでは、各々の経験から活発な意見交換がなされました。研修会後のアンケートでは、「勉強になった。交流を深めることができた。良い研修会に参加できた。」などたくさんの方の感想やご意見もいただきました。

研修会の事務局運営を通して得られた仲間との絆や新たな出会い、そしてやり遂げたという達成感を実行委員スタッフ皆で味わうことができたのは、大きな財産であると感じています。この研修会でテーマにした「訪問リハの可能性」を広げていく活動を継続し、よりよいヘルスケアサービスの提供につなげていきたいと考えています。

八尾はあとふる病院 リハビリテーション課
理学療法士 真鍋 阿沙子



2012年4月～10月 法人主催研修の報告

開催日	研修名	研修内容
4月2日(月)～6日(金)	はあとふるグループ新入職者研修	今年度は、はあとふるグループに入職した職員を対象とした研修で、ヘルスケア従事者として必要な基礎的知識を得るために研修です。島田理事長をはじめ、グループ内職員が講師です。今年度は32名の新入職員が参加しました。
6月23日(土)	フォローアップ研修①	入職2年目職員の研修です。グループごとに自分が勤務している現場での問題点を抽出します。職場紹介のパワーポイントも作成しました。
7月28日(土)	コミュニケーション研修	グループ内職員が講師で、研修参加希望者を募り実施した研修です。演習を多数取り入れ、コミュニケーションスキルを学びました。
8月18日(土)	フォローアップ研修②	入職3～6年目の研修です。フォローアップ研修で、①2年目の職員が作成したパワーポイントに追加していく事で、現場での問題点の解決策を考えました。
9月6日(木)	新任考課者研修(基礎編)	主に新任の考課者及び考課者研修参加2回以下の考課者を対象とした研修で、はあとふるグループの人事制度の基礎を学び、育成面談に必要なスキルの向上を図ることが目的です。講師をお招きして開催しました。
9月8日(土)	フォローアップ研修③	入職7年目以上の職員の研修です。あまり法人内研修に参加する機会が無かった職員向けにメンバーシップやチームワークを再度確認しました。
9月28日(金)	モチベーションアップ研修①	熊本大学教育学部付属 教育実践総合センター 吉田道雄先生による、楽しいお話とグループワークで元気になれる研修内容で、自己のモチベーション・仕事に対するモチベーションアップを図りました。
9月29日(土)	モチベーションアップ研修②	
10月20・21日(土・日)	リフレッシュアップ研修	今年度入職者とリーダー役の職員を対象に、楽しみながらリーダーシップ・メンバーシップを学ぶ研修です。グループワークや物作りをチームで行いながら交流を深めました。

はあとふるグループ 使命

私たちには、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
知識
Cool Head *Warm Heart*
技術
Beautiful Hands
で支援します

はあとふるグループの基本方針

- 「確かな知識と技術」を追求します
- 「心に届く」を追求します
- 「安全」を追求します
- 「信頼でつながるチーム」
を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当
感染管理認定看護師 森下 幸子

海外だけの問題ではない輸入感染症について

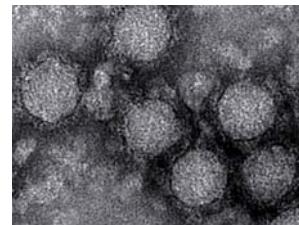
時々、海外で発生している感染症について、テレビやラジオ、新聞で報道されています。「なんだか、難しそうな病名。でも私は、海外旅行に行かないから関係ないわ」と思われている方もおられるかも知れません。

でも、これは海外旅行へ行く人だけの問題ではないのです。休日も増え、便利になったこの時代、あらゆる国へ行くことができるようになりました。しかし、いろいろなウイルスや病原菌が、こっそり人へ入り込みそのまま日本へ一緒に上陸してしまいます。もちろん、帰国したときに症状がある方は「検疫所」へ報告をしなければなりませんが、ほとんどの方は家に着いてから「ん?なんだか…調子が悪い」となるようです。最近、問題になっている感染症を紹介しましょう。

①7月頃より米国で「ハンタウイルス肺症候群」の発生が報告されました。原因是“ネズミ”です。“ネズミ”に噛まれるだけでなく、“ネズミ”的糞や尿、唾液に触れる、それらに汚染された埃を吸い込むことで感染します。

②7月頃、カンボジアから帰国した方が「チクングニア熱」を発症し福岡の病院で治療を受けました。偶然にも同じ7月にカンボジア、ベトナム、タイを旅行した方が、帰国してから下痢と発熱を伴い同じ「チクングニア熱」と千葉の病院で治療を受けました。原因は“蚊”です。“蚊”に刺されないように予防する事が重要です。

その他、まだまだありますが、海外旅行へ行く前に、FORTH(厚生労働省検疫所のホームページ)
<http://www.forth.go.jp/index.html> から情報を集めて、予防に努めましょう。



写真はチクングニアウイルス
(国立感染症研究所ホームページより)



はあとふる グループ

●医療法人(財団) 永広会

島田病院	072-953-1001
Eudynamics	はびきのヴィゴラス
介護老人保健施設	悠久亭
在宅介護支援センター	悠久亭
介護サービスセンター	ゆうゆう亭
〒583-0875	大阪府羽曳野市桙山100-1
ヘルパーステーション	悠久亭
訪問看護ステーション	ハートパークはびきの
〒583-0883	大阪府羽曳野市向野3-96-7
八尾はあとふる病院	072-999-0725
〒581-0818	大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター	はあとふる
〒581-0815	大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター	ゆうゆうハウス
〒583-0875	大阪府羽曳野市桙山96-10